【日本の大学】第 36 回――神田外語大学：真の国際人材を育成

神田外語大学は、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」を建学理念として 1987 年に設立された外国語学習に特化した私立大学である。「真の国際人材」「心優しいグローバル人材」の育成を目標に、少人数学修を基本に地道な活動を積み重ねている。

グローバル化が進む中で、大学では「世界共通語としての英語」の習熟がまず必要不可欠であると考えており、その上で、全学科・専攻で「ダブルメジャー」という外国語学部としては、他に類を見ない教育モデルに挑戦している。これまで外国語学部 1 学部であったが、2021 年 4 月からは、「グローバル・リベラルアーツ学部」を新設し、2 学部体制となった。

7 号館外観

以下、神田外語大学のホームページなどから、大学の現状を概観しよう。

大学のルーツは、1957 年に初代学院長であった佐野公一によって開校した「セントラル英会話学校」（本部　東京・神田）である。同校はその後、1964 年に神田外語学院に名称を変更、76 年には専門学校法の施行により、外国語専門課程の専門学校として認可を受けるなどの経過をたどった。

1987 年には、千葉県幕張市に神田外語大学を開学するとともに、神田外語学院にあった異文化コミュニケーション研究所を大学に移籍、言語教育研究所も新設した。現在も、創設

者の名を冠した学校法人佐野学園が神田外語大学、神田外語学院などの教育関連機関を運営している。

大学は以降、大学院言語科学研究科前期課程を設置（1992 年）、同後期課程を設置（94 年）、外国語学部に国際コミュニケーション学科、国際言語文化学科を設置（2001 年）など、体制を整備。2012 年には、学科を「英米語学科」「アジア言語学科」「イベロアメリカ言語学科」「国際コミュニケーション学科」の 4 学科に再編した。

外国語学部は、グローバルな社会を生き抜いていくのに必要な能力は語学力と真の教養であるとして、自分の気持ちを相手に積極的に伝える力と、その相手を本当に理解し心から受け入れることができる力、という二つの力を身につける環境を用意している、という。

現地に旅し留学する感覚を味わいながら、言語と文化を学ぶユニークな空間、それが、MULC（マルク）。

英米、アジアなど 4 学科

4 学科のうち、英米語学科は、英語を話せるというだけでなく、英語を使って何を、どのように受信・発信していくか、すなわち、英語を使っての問題解決能力を身につけることに全力を挙げている。アジア言語学科では、日本や中国といった国単位ではなく、地域全体を俯瞰して捉える。中でも発展を続ける五つの国の言語（中国、韓国、インドネシア、ベトナム、タイ）を一つの学科に集約、広く「アジア」という地域で世界を捉える力を養う。

イベロアメリカ言語学科は、スペイン語圏とポルトガル語圏が現代社会においても密接な関係を持っており、この二つの言葉が話される地域を「イベロアメリカ」という単位で広くとらえ直して学ぶ。現在、事実上の世界共通語は英語と言われるが、芸術や文化面ではラテン語系列のスペイン語が共通語の役割を果たしているという面がある。

国際コミュニケーション学科は、グローバル・リテラシーを養い世界を舞台に活躍する人財を育てる。英語の運用能力を身につけるだけでなく、英語を使って異文化とどのようにコミュニケーションをとるか、国際ビジネスの舞台で活躍するのかを深く学ぶ。スキルとしての英語やコンピュータを主に学ぶ「国際コミュニケーション専攻」と、ビジネスに特化した英語やインターンシップなどを通じてビジネスを中心に学ぶ「国際ビジネスキャリア専攻」の 2 専攻がある。

アカデミックサクセスセンター（2017 年 10 月に正式オープンした、学生が様々な学びの場で “サクセス（成功）” して行くために必要な、英語および日本語に関連する学習機会を提供する施設）

各学科、専攻以外の言語を学べる「選択外国語科目」や、幅広い知識と教養を身につける「基礎科目」、そのほかにもキャリアデザインやインターンシップの授業も用意されている。

さらに、全学生は、専攻を問わず、「コミュニケーション能力」「異文化理解能力」「専門

性」を身につけることができるカリキュラムを用意されており、そのうちの「専門性」を修得するために四つの研究コースがある。言語そのものを研究対象とする「言語研究コース」、コミュニケーションという人間の行為自体を研究対象とする「コミュニケーション研究コース」、日本のほか、アメリカ、中国、韓国、イベロアメリカ、東南アジア各国・地域に関する文化、思想、歴史、政治、社会について学ぶ「総合文化研究コース」、現代社会の国際情勢や国際関係について総合的に理解を深めるための「地域・国際研究コース」である。

また、各科・専攻以外の外国語を選択外国語として学ぶこともできる。初級、中級、上級などレベルに応じた科目が用意されている。

各専攻言語に具体的な到達目標を設定し、「読む、書く、話す、聞く」の技能を総合的に駆使することのできる言語運用能力の養成を目指す。加えて、通訳・翻訳・討論・スピーチやプレゼンテーションの訓練を取り入れるなど、高度で実践的な専攻言語の運用能力を養成するための教育課程を編成している。

言語の背景にある歴史・文化・社会・経済などの教育については、研究科目や研究演習のほか、体系的かつ学際的に学習できるように、研究コースも設置されている。

附属図書館

4 月から新学部スタート

2021 年 4 月には新たにグローバル・リベラルアーツ学部が設置された。世界を考え、平和を実現するために必要なグローバル教養を身につけることを目標としている。三つの専門学問領域を学ぶ。

ひとつは様々な人間の営みについて考える「ヒューマニティズ」、多様な価値観を持つ人々が生きる社会環境や我々を取り巻くテクノロジーの進化について学ぶ「ソサイエティズ」、世界各地で起こっているリアルタイムな事象を知り、グローバル化の本質を学ぶ「グローバルスタディーズ」である。卒業までの 4 年間に 2 回の海外留学を必修としている。入学直後から半年間を、「グローバル・チャレンジ・ターム」とし、全学生が必須の海外スタディ・ツアーがある。ツアー候補としては、リトアニア、インド（プネー）、マレーシア（ボルネオ島）、エルサレムがあり、それらの地域へ行って、世界を体感する。3 年次では、ニューヨーク州立大学に留学する。

8 号館エントランス（「KUIS 8」がめざしたのは、人種･国籍を超えた人との出会い、探求心の高めあい、向上心を刺激しあうことのできる「喧騒の場」）

正規課程の留学生別科

日本語を学びたいという外国人留学生のため、大学では 2000 年 9 月に、正規の教育課程として「留学生別科」を開設した。別科の修業年限は 1 年。学期は 4 月、または 9 月から始まる。4 月上旬～7 月下旬の春学期と、9 月中旬～翌年 1 月中旬の秋学期の 2 学期制を取っており、1 年間在籍し、日本語演習を含む必修 16 単位及び選択必修科目 12 単位の計 28

単位を修得することが修了要件である。ただし、現在は、大学の国際協定校に在籍し、交換留学制度を用いて来日する留学生だけを受け入れている。従って、申し込みは所属大学を通じて行うため、志願者自身がノミネートすることはできない。また、新型コロナウイルスの世界的な感染状況によって 2020 年に関しては、従来行っていた対面での授業ができず、オンライン授業で実施された。21 年に関しても依然として、コロナの影響があるため、受け入れが中止し、オンラインで提供する。

キャンパス内には、外国人教員や留学生たちとふれあえる充実の空間があります。

大学院では、言語の音、語彙、文法やその運用など、言語の仕組みや体系について探求する（言語科学）とともに、母語以外でコミュニケーションすることの意味や、言語教育のあるべき姿について、理論と実践から迫る。中学校、高等学校やさまざまの英語教育、日本語教育の場で、指導的役割を果たすことにできる人財を養成している。教員数は、教授、準教授、講師など 112 名、大学院、付属研究所、留学生別科などの教員が 150 名、兼任教員を差し引くと 231 名となっている。（2019 年 5 月現在）

神田の授業はどれも少人数制が基本です。少人数だから先生との距離も近く、わからないところがあればすぐに聞けるので、着実に実力をつけることができます。

在籍者数は、2020 年度、4160 名（男子 1139 名、女子 3021 名）、大学院言語科学研究科は 46 名である。留学生数は学部 69 名、留学生別科 45 名、大学院 14 名の計 128 名である。

現在の学長は宮内孝久氏である。早稲田大学法学部卒、三菱商事に入り、サウジアラビアのリアド駐在や、メキシコで塩田の経営などを経験、代表取締役副社長などを経て 2018 年から現職。

日文：滝川　進

写真：神田外語大学 HP から